

9月9日

「国際青年育成交流事業」既参加青年との市内視察

訪問先都市	ウィーン
コ メ ン ト	オーストリアの青年たちのガイドの元、お互いの国の文化や普段の生活について語り、食事を適宜とりながらウィーン市内を散策した。歴史ある建物が立ち並ぶ街並みは日本では見ることができない景色であり、ウィーンの伝統を大切にしている精神を感じることができた。また美術館などでは近代的な建物も多く、昔ながらの雰囲気を残しつつ、新しい芸術も織り交ざっており、日本も見習うべきところがあると感じた。オーストリアの青年は皆優しく、散策中も街について丁寧に説明してくれ、良好な友好関係を築くことができた。

9月10日

在オーストリア共和国日本国大使館 (Embassy of Japan in the Republic of Austria)

訪問先都市	ウィーン
面 会 者	小井沼紀芳 在オーストリア日本国特命全権大使 岩渕系 在オーストリア日本国大使館 一等書記官(広報文化センター所長)
コ メ ン ト	在オーストリア共和国日本国大使館を訪問し、小井沼大使から歓迎と激励を受けた。大使から、青少年の交流に際して大切なことは、互いの価値観を尊重し合い、自分の言葉でありのままを伝えることだとお話をいただいた。また、岩渕一等書記官からは、オーストリアについての情報や、日・オーストリア関係についてのブリーフィングをいただいた。書記官はお話の中で、二国間関係は概ね良好である一方、原発政策や捕鯨においては考え方の相違もあると述べられた。2019年日本オーストリア友好150周年に向けて、私たちも二国間関係をより良いものにするため更なる努力をしたいと感じた。

マグダス・ホテル (Magdas Hotel)

訪問先都市	ウィーン
コ メ ン ト	マグダス・ホテルは、ソマリアやアフガニスタンなど様々な地域からの難民を雇用し、言語や仕事のノウハウの教育により難民の自立を支援するソーシャル・ビジネスを展開している。マグダス・ホテルのスタッフから、2015年2月のホテル設立の経緯やホテルの内装やインテリアの工夫についてご説明いただいた。同時に、ソーシャル・ビジネスとビジネスの違いや、ソーシャル・ビジネスとしてホテル経営を行う中での困難や意義、その動機など、幅広くお話しいただいた。

オーストリア赤十字社 (Austrian Red Cross)

訪問先都市	ウィーン
面 会 者	Paramedic Doctor / Dog Handler その他 RED CROSSの皆様
コ メ ン ト	オーストリア赤十字社は1880年に設立された、救助や救急車派遣、輸血システムの確立、災害管理などの活動を行なっている機関である。今回の訪問ではウィーン国際空港近郊にある、救助犬部隊の訓練施設を視察した。部隊は災害時における人命救助を任務としている。瓦礫や土砂、家屋、タイヤなどの訓練施設があり、実践形式の訓練が行われていた。訓練はボランティアトレーナーにより行われており、救助犬はトレーナーに世話されている。訓練期間は数か月から数年、犬の性格により様々であるとのことだった。

9月11日

wienXtra 余暇教育協会 (Institute for Leisure Time Pedagogics)

訪問先都市	ウィーン
面 会 者	International Youth Work
コ メ ン ト	wienXtraは余暇教育を普及している協会である。余暇教育とは学外教育であり、知識の獲得等に結合する大切な教育である。今回の訪問ではwienXtraの活動を知ると共に、私たち派遣団から日本文化を紹介した。初めに、wienXtraの職員の方からウィーンの都市概要説明とwienXtraの具体的な活動内容について説明をいただいた。次に私たち派遣団から、「日本の若者の日常生活」を基本としたプレゼンテーションを行った。最後に日本の歌と踊りのパフォーマンスを披露した。

9月12日

スペース・ラボ (Spacelab)

訪問先都市	ウィーン
面 会 者	Youth Worker at Spacelab Design
コ メ ン ト	オーストリア国内に4拠点を構えるSpacelabは、様々な事情で十分な教育を受けることができていない15歳から24歳までの青年に対して、青年間の交流の場や専門性の高い職業訓練等の提供を行う支援機関である。実際に支援の一環として行われている木工作業や、料理作り、現地青年との議論を通し、国内全体の失業率5.6%と比較して25歳以下の失業率が9.6%と高いオーストリアの現状において、民間企業の協力のもとで行われている青年支援の取り組みがいかに重要であるかとの学びを得た。

9月12日～14日

ヤング・カリタス (youngCaritas)

訪問先都市	ウィーン
コ メ ン ト	ヤング・カリタスは有名な青年ボランティア団体である。今回はファッション、芸術・文化、余暇活動の三つの班に分かれ、現代における若者の表現について話し合うとともに交流を深めた。その中で、両国共に青年たちは携帯電話を通して情報を得たり、文章や写真で自分らしさを表現していることが分かった。また、オーストリアではストリートアートが合法な場所があることや、日本青年の方が奇抜なファッションで自分を表現するなど情報交換にもつながった。全てのグループが、共感するだけでなく、違いを理解することを楽しんで取り組むことができた。まず、カリタスのpeppa girls cafeを訪問した。施設の方から活動についてのプレゼンテーションを聞いた後、質疑応答をした。その後、施設内見学をしながら、実際にボランティアの人が活動している姿を見た。その後、Actionsfabrik youngCaritasへ移動し、先程の施設訪問を通して感じたことの共有や、三日間通して学んだことを一人一人が発表した。最後に、ヤング・カリタスの方に向けて、日本文化紹介の歌とソーラン節の発表を行った。

9月13日

Ganztagsvolksschule Wehlistraße 小学校

訪問先都市	ウィーン
面会者	Head of Ganztagsvolksschule Wehlistraße
コメント	Ganztagsvolksschule Wehlistraße 小学校には、言語や宗教の異なる移民の児童が集まる。そのためドイツ語の話せない児童に、トルコ語やアラビア語を話す教師による授業や多言語の本を用意するなど、彼らの負担を少なくする語学教育がなされている。私たちは、この小学校の教育について「語学教育」「NOという力」の2点を重視しているという説明を受け、その後、6～10歳の児童に日本文化の紹介を行った。異文化を持つ子供たちが同じ環境で生活することの難しさを感じたが、言語の壁を超えて子供たちと交流し、日本文化に興味を持ってもらえたことが強く心に残る訪問であった。

国際連合 UNO シティ (United Nations UNO City)

訪問先都市	ウィーン
コメント	ウィーンは国際連合本部のある4都市の一つであり、IAEA(国際原子力機関)、UNIDO(国連工業開発機関)、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)等を擁する。冷戦下の1980年、国連は中立を保つため、永世中立国であり、また東西の仲介者でもあったオーストリアのウィーンを第三の国連都市として選んだ。現在、ウィーンは主に科学技術と宇宙関連の事柄についての議論の場である。第三次世界大戦を防ぐために設立された国連には広島・長崎関連の遺物が展示されており、日本が唯一の被爆国であり続けることを切望すると同時に、国連の世界平和への熱意を感じた。

9月14日

オーストリア連邦首相府第5総局第7局(国際・欧州家族・青年政策) (Unit V/7- International and European Family and Youth Policies, Federal Chancellery of the Republic of Austria)

訪問先都市	ウィーン
面会者	Federal Minister for Women, Families and Youth Deputy Director of Unit V/7- International and European Family and Youth Policies, Federal Chancellery of the Republic of Austria
コメント	オーストリア連邦首相府のオフィスを訪れ、オーストリア連邦首相府第5総局第7局(国際・欧州家族・青年政策)の担当者から、オーストリアの概要・若者の生活について説明があった。興味深かったのは、オーストリアがドイツに対抗心を燃やしていることで、オリンピックにおけるアルペンスキーのメダルの獲得数がドイツよりも多いことに、とても誇りを持っているとのことだった。派遣団からは、主にオーストリアの若者について質問が飛び交った。ディスカッションの途中に大臣が姿を見せ、私たちにご挨拶をしてくださった。短い時間の中、こちらから本事業の説明をしたり、オーストリア事情について話を伺ったりした。

ウィーン少年合唱団コンサート鑑賞 (Vienna Boys' Choir)

訪問先都市	ウィーン
コメント	ウィーン少年合唱団のコンサートを鑑賞した。2部構成で、第1部はアカペラとピアノ伴奏ありの合唱、第2部はオーケストラ形式の演奏であった。「天使の歌声」と呼ばれる少年たちの合唱に観客全員が魅了され、最後の曲では皆がスタンディングオベーションで喝采を送った。特に会場にいる全ての人たちを一体にする指揮者の情熱的なパフォーマンスに感動を覚えた。

9月15日、16日

アウトドア活動

訪問先都市	グムンデン
面会者	
コメント	9月15日、グムンデンにて、現地青年とのハイキングを楽しんだ。ハイキングでは、現地ネイチャーガイドがグムンデンの地形や草木、花々について解説してくれた。その後、私たちは湖畔へ移動し、地元漁師とのバーベキューを楽しんだ。彼らは私たちに、魚の塩焼きやソーセージを振舞ってくれた。湖畔の夕焼けを眺めながら楽しんだバーベキューは言葉では表現できないほど素晴らしいものであった。この日の研修は現地の人々の生活を垣間見る良い機会であった。グムンデンの麓からケーブルカーに乗り、Baum pfad salzkammergutの展望台・遊歩道を散策した。ハイキングでは、木々や野草の観察・採集を行い、野外炊飯の材料として用いた。ハイキングは主に舗装された道を通った。国外からの観光客だけでなく、地元住民も利用しており、山での挨拶やマナーなどを学ぶことができた。野外炊飯では地元青年と協力し、野草やハーブを用いたオーストリア料理を作り、楽しむことで絆を深めた。

9月17日

オーストリア・ボーイスカウト、ガールガイド (Austrian Boy Scouts and Girl Guides)

訪問先都市	リンツ
コメント	リンツ市では、小学生から社会人まで幅広い世代がオーストリア・ボーイスカウト、ガールガイドに所属し、その自然や文化をいかしたアウトドア活動を行っている。その団体に所属している青年十数名とともに、私たちはリンツ市全体を巡る市内オリエンテーション・ゲームを体験した。リンツ在住の青年たちと交流しながらまた、これまでに訪問したウィーンやグムンデンと比較しながらリンツの人々が一体どのように生活しているのか、その日々の生活の様子を学ぶことができた。

9月18日

ユーゲント・サービス (JugendService)

訪問先都市	リンツ
面会者	Job Coaching
コメント	ユーゲント・サービスは、連邦首相府により14の地域に設立された、若者に正しい情報を提供することを目的とした団体である。前半は団体による説明、後半は質疑応答が行われた。スタッフによる説明では、ユーゲント・サービスが12～26歳の青少年を対象に、どのような活動を行っているかを知ることができた。その中で、情報を提供するだけでなく、カウンセラーによるカウンセリングや、職業訓練を行うことで、青年のサポートや育成に力を注いでいることが分かった。

アルス・エレクトロニカ・センター (Ars Electronica Center)

訪問先都市	リンツ
コメント	地理学や生物学等を用いた科学技術と芸術を融合し、新たな表現領域を追求するアルス・エレクトロニカ・センターは、従来の伝統文化の維持と産業の発展を遂げるリンツ市の象徴である。「芸術、先端技術、社会」をテーマにした市民参加型の祭典が毎年開催されており、文化芸術都市を形成する重要な機関である。センターの職員から各展示部門の説明を受け、眼球内の網膜を映し出すカメラ、音と映像で作り出された非現実的な仮想空間、コンピューターで出力した複雑な模様を切り出すレーザー加工機等の体験をした。

9月19日

リンツ副市長表敬訪問

訪問先都市	リンツ
面 会 者	Vice Mayor of Linz City
コ メ ン ト	リンツ市はウィーン市、グラーツ市につぐオーストリア第三の都市であり、鉄鋼業が盛んな産業都市でもある。今回の表敬訪問では、初めにリンツ市についての概要を市の担当者の方から説明していただき、その後、デトレフ・ヴァインマー副市長とお話させていただいた。リンツ市がなぜ産業都市になったのか、産業都市ゆえの環境対策について等、私たちがリンツ市に数日間滞在して感じた疑問について質問させていただいた。

ブルックナー大学 (Bruckner University)

訪問先都市	リンツ
面 会 者	President Vice President Pianist of Anton Bruckner Privatuniversitat Linz Personal Assistant to the Rector / Head of National and International Relations
コ メ ン ト	ブルックナー大学は、古い歴史を持った音楽院が発展して創立した大学である。音楽、バレエ、演劇の三つの専攻があり、50か国から集まった約800人の学生が在籍する。芸術家を招いたワークショップや三つの専攻を融合させた舞台の開催が魅力であり、また芸術教育を重視しているオーバーエスターライヒ州からの支援やヨーロッパ中の学校と提携した交換留学があることなどが特徴である。学費が安い、高い技術を持っていれば経済面の心配をせずに入学できる環境が芸術のレベルを高めており、日本も参考にすべきだと感じた。

コワーキングスペース Factory300 and Strada del Startup

訪問先都市	リンツ
コ メ ン ト	デジタル化が凄まじい速さで進行する今日、工業都市であるリンツが労働者と企業を惹きつけ続けるためには技術革新の核となる場が必要である。その役割を果たしているのがFactory300であり、資金とネットワークを必要とする人々と、人材とアイデアを必要とする企業とが集まり、学び、働くプラットフォームを提供し、新たなアイデアの現実化を支援している。私たちは、元タバコ工場を改装したスタイリッシュな施設に若者が次々と集う中で設立者の説明を受け、保守的になりがちなオーストリアにおいて創造性を発揮する彼らのパワーを感じた。

シュタイレグ城 (Schloss Steyregg)

訪問先都市	リンツ
面 会 者	ニクラス・ザルム＝ライフアーシャイト伯爵
コ メ ン ト	明治・大正期の外交官を務めた青木周蔵氏の子孫であるニクラス・ザルム＝ライフアーシャイト伯爵に城の中を案内していただいた。城の中に教会を見学した他、若き頃の青木周蔵氏の写真等を見せていただいた。青木周蔵氏の別邸がある栃木県那須塩原市はリンツ市と海外姉妹都市の提携を結んでおり、毎年那須塩原市の学生たちがリンツを訪れるなど、相互に交流を行なっている。2019年は日本オーストリア友好150周年を迎えるため、その記念として、来年はシュタイレグ城にて雅楽演奏などの催しが行われるとのことであった。最後に派遣団からのお礼として、ピアノ演奏と「花は咲く」「エーデルワイス」を合唱した。

9月20日

プライメタル・リンツ社(Primetals Linz)

訪問先都市	リンツ
面会者	Senior Vice President, Head of Sales-Asia Supply Chain Manager, Down Stream General Manager, Sales-Asia Technical Sales Manager, Hot Rolling Mills
コメント	プライメタル・リンツ社は三菱日立製鉄機械株式会社と独シーメンスVAI社が合併してできた会社であり、製鉄会社が必要とする機械を製造している。はじめにプライメタル・リンツ社の沿革、役割、目的、目標等を映像やスライドを使った説明を受けた。その後、三つのグループに分かれてプライメタル・リンツ社の日本人社員、現地社員の方々に様々な質問をする機会をいただいた。主に日本とオーストリアの労働状況の違いやワークライフバランス等について学ぶことができた。オーストリアを始め、欧州で働くとはどういうことなのかを具体的に知ることができ、将来設計に非常に役立った。

